

島根大学研究見本市

研究テーマ名 発達障がい児の意志受容を支援するコミュニケーションエイド  
(英訳) A Communication Aid for People with Developmental Disorders  
to Augment the Understanding of Messages

研究者紹介

廣富 哲也 (総合理工学研究科・准教授)

Tetsuya Hirotoni (Associate Professor, Interdisciplinary Graduate School of Science and Engineering)

概要

発達障がい児は、神経心理学的検査や行動観察により、「見て答えること」に比べ、「聞いて答えること」の発達が遅れていることが明らかになる場合が少なくありません。本研究では、視覚シンボルを構造化して提示することにより、発言を視覚的に理解する手がかりを与え、障がい児の意志受容を支援するコミュニケーションエイド「STalk システム」を開発しました。

The results of neuropsychological tests and observation on a person with developmental disorders often find difficulties for the understanding of verbal messages without visual aids. We have developed a communication aid, named “STalk system,” where the system presents a message by a set of symbols in a structured form.

特色  
研究成果  
今後の展望

意思伝達を支援する福祉機器やモバイルアプリケーション(コミュニケーションエイド)のほとんどは、障がい児の意思表出支援が目的です。本研究で開発した STalk システム(図1)は、意思受容の支援に焦点を当てている点が特色であり、障がい児とその家族を対象とした長期間に渡るケーススタディによって、障がい児の発言に対する理解を向上させ、コミュニケーションに関する家族の負担を軽減することがわかっています。コンピュータを用いて、会話を支援する視覚的な手がかりをタイミング良く提示する本研究の手法は、発達障がい児だけでなく、認知症患者など、より多くの人のコミュニケーションを改善することが期待されます。



図1. STalk システム

キーワード

支援技術、拡大・代替コミュニケーション、ユーザ・インタフェース、福祉機器、発達障がい

リンク

<http://www.cis.shimane-u.ac.jp/~hirotomi/>